

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 学校教育グループ

基本事項	事務事業名	島原市中学生海外派遣事業				整理番号	2202	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ●なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10 款 1 項 4 目	◎ 継続 ○ 新規			
		節 第2節 義務教育の充実	事業区分	市民サービス事業				
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	平成6年度から始まった事業で、当初は、噴火災害で沈みがちな島原の中学生を励ますことを主な目的としていたが、近年は、グローバル化が進む国際社会への対応としても重要な事業であると位置付けている。				計画期間	始期	平成 6 年から
						終期	平成 年まで	
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	対象:本市の中学3年生 訪問国:中国(平成21年度までは韓国) 目的:将来の島原市を担う心身ともにたくましい人材の育成を目指して、本市の中学生に、夏季休業中を活用した海外の教育関係施設の見学及び現地中学生との交流活動を体験させ、国際的視野の拡大と国際親善に努める素地を培う。						
	目的達成のための手段・方法	① 参加者の目的意識を高め、有意義な訪問とするために、保護者も参加しての事前研修会を3回実施する。 ② 体験をとおして学んだことを共有するために、帰国後、研修報告会を実施する。						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	22年度	23年度	24年度	
		① 中国で学校を訪問し、現地の生徒と交流する場を設けることで、参加生徒が異なりに学ぶことを実感できる訪問交流とする。	目標	回	1	1		
		実績	回	1	1			
		達成率	%	100.0	100.0			
	② 帰国後の報告会で、生徒、保護者、引率者へそれぞれアンケートを実施する。生徒の4段階評価において「たいへんよかった」が80%以上となることを目指す。	目標	%		80			
		実績	%		86.8			
		達成率	%		108.5			
活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	① 事前学習会を3回実施し、参加生徒の目的意識を高め、より効果的な訪問となるようにする。		目標	回	3	3		
			実績	回	3	3		
	② 事業終了後、報告会を行う。それぞれの生徒が体験したことをもとに研修成果を発表し、学びを共有する場とする。		目標	回	1	1		
			実績	回	1	1		
事業費等の推移	年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		2,040	1,627	2,400	2,583	2,443	
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他			1,899	1,787	1,878	
		一般財源	2,040	1,627	501	796	565	0
	②従事職員給与費 b1×b2		0	0	0	0	0	0
従事職員数(人) b1								
職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236			
事業費合計 ① + ②		2,040	1,627	2,400	2,583	2,443	0	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった グローバル化や国際社会に生きることが、以前にも増して求められている。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 対象が、中学生であり、行政・学校の関わりは、欠かせない。本事業の民間への委譲は、むずかしい。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 D=適切ではない 15名の中学生を選考し派遣しているが、訪問希望者も定員を上回り、選考が難しかった。募集定員の増員を検討する必要がある。	B
有効性	④事業の実施により初期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 中国での交流活動をとおり、訪問団員は、語学力特に英語の必要性を強く感じている。また、国際的視野の拡大に繋がっている。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 現在の日程で、十分に成果が得られている。上海航路等を活用することも検討したが、利便性や生徒の負担等を考えると現状維持が望ましい。	A
効率性	⑥活動量や成果を下げずにコストを削減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 3泊4日の日程のため、夏季休業中に訪問を実施している。猛暑の中で訪問であり、旅行日程には余裕が必要である。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 島原市内の中学生を対象とした取組であり、事前研修会や報告会を計画的に実施しているため、現状維持が望ましい。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 長崎県上海事務所や現地旅行業者との連携を図り、訪問先の手配を行っている。内容の一部を現地旅行会社へ委託することも検討したい。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 個人負担は、パスポートの申請にかかる経費のみ(11,500円程度)である。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
判定評点平均 A=3、B=2、C=1、D=0として換算			2.80

◎総合評価			
評価 結果	● A 継続実施(特段の見直しは行わない)	判断 理由	訪問後のアンケートや生徒の報告書からも、本事業が生徒にとって価値のある体験学習となっていることが分かる。これからの時代を生きる子どもたちには、国際的な視野を持つことが必須であり、本事業に対する期待はますます大きくなっていくものと思われる。よって、継続実施をお願いしたい。
	B 改善・見直しを行う		
	○ B1 事業規模の拡充		
	○ B2 事業規模の縮小		
	○ B3 事業内容の改善・見直し		
	○ B4 その他の見直し		
○ C 休止(隔年実施などへの変更)			
○ D 廃止(終期の設定等を含む)			
(実施上の課題等) ① 訪問生徒の選考方法を見直す。 ② 訪問に係る費用の一部を保護者負担とする。			
今後の課題及び改善策、見直しの状況			
・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。			

【2次評価】

総合判定	B1見直しのうえで実施 ⇒ 事業規模を拡大
備考	グローバル化の進展や国際感覚を身に着けるという観点からも、事業の必要性は大きい。希望者が定員を上回っている状況から、費用の一部負担を求めることも考慮して、参加者数の拡充の必要がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	(千円)